

令和6年能登半島

地震発生直後から関係各所が連携し AMAT先遣隊を現地に派遣

2024年1月1日の16時06分に、石川県能登地方を震源とする最大震度7、マグニチュード7.6の地震が発生しました。はじめに、被災された皆様へ謹んでお悔やみを申し上げますとともに、心からお見舞い申し上げます。

この令和6年能登半島地震に際し、全日本病院協会が主導するAMAT(全日本病院医療支援班)が現地に医療支援のため派遣されました。その派遣に向け、私も全日病で救急・防災委員会委員長を務める立場から携わりましたので、日本医療法人協会会員の皆様にもご報告いたします。

まず、1月1日の地震発生直後、私はすぐに他の役員の方々とともに情報収集や対策本部の立ち上げ要請などを進めるかたわら、全日病副会長で医法協会員でもある社会医療法人財団董仙会理事長の神野正博先生へ、安否確認のため連絡を試みました。

約1時間後、ようやく神野先生とつながり状況を確認すると、現地では道路などの陥没によって交通網が機能不全に陥っており、神野先生もご自宅から恵寿総合病院まで徒歩で向かわれていました。その時点で病院とは連絡がついていたようで、

本館は免震構造が幸いして甚大な被害は免れたものの、他の建物では大きな被害を被ったとのことでした。また、恵寿総合病院にもAMAT隊員資格を持つ職員が在籍していたため、周辺地域の被災状況などの報告も受けました。

一方、全日病の災害対策本部では、17時前にはAMATの派遣要請の準備が整い、中部、関東、関西のAMAT病院・隊員への派遣要請が決定されました。さらに、この頃には石川県だけでなく富山県でも大きな被害が出ているとの情報が入っており、富山県の会員病院などにも安否確認を行いました。

現地からのこうした情報共有もあり、全日病の災害対策本部では早急にAMAT先遣隊の派遣を決定。17時すぎには、東京都葛飾区の医療法人社団直和会平成立石病院で先遣隊派遣の準備に入った旨が報告されました。

そして、発災翌日の1月2日、AMAT先遣隊2隊が石川県、富山県に1隊ずつ出動しました。その後も、続々とAMATチームが石川県を中心に現地に派遣され、1月11日まで被災地の医療支援に従事しました。

なお、AMATでは、基本的にまず現地の会員病院等への「互助」から活動を開始するのですが、幸いなことに、現地の会員病院の多くは被害を受けたものの、自院である程度対応できる状況である

地震に寄せて

とわかりました。そこで、今回AMATについては、当初からDMAT(災害派遣医療チーム)とも連携し、避難所や公立・公的病院などへの支援に取り組みました。

日本の医療者の使命感を改めて実感

今回の能登半島地震では、AMATの派遣要請に対して多くの病院が積極的に手挙げをしてくださり、志願した隊数は四十数隊にのぼりました。そのうち実際に現地に出動し医療支援活動に従事したのが最終的に33隊なので、10隊近くが、万が一追加派遣が必要になった場合に備え、待機してくれていたということです。志願したすべての隊が出動する事態とならなかったことは不幸中の幸いであるとともに、待機状態の隊を含めて多くの医療者が被災地のために備えてくださったことは非常に素晴らしいことです。

AMATはDMATと異なり、診療報酬等による補助などはなく、有志の会員病院のボランティアによって成り立つ活動です。そのうえで、これだけの病院が手挙げしたことに、日本の医療者の強い使命感に改めて感銘を受けるとともに、年末年始の時期にもかかわらず、被災地のため職員を動員してくださった民間病院のパワーを、再認識した次第です。

これもひとえに、日ごろからAMAT研修等の活動に注力されている、全日病の取り組みの賜物とも言えるでしょう。

また、今回AMATとして現地に出動された病院のなかには、私が経営する加納総合病院をはじめ、医法協の会員病院の方々もいらっしゃいました。重ねて御礼申し上げます。

今後、地域の復興に向けては、これまで起こった震災と同様に長期的な支援が必要となると考えられます。医法協としても、これからも復興に向けた支援協力を惜しまず、病院団体としてできることを検討してまいりますので、その際は会員病院の皆様におかれましても、ぜひご協力を賜れますと幸いです。

